

自分の花を咲かせよう

第2号
令和2年4月20日(月)
文責：森田美貴子

緊急事態宣言を受けて

コロナウィルスによる緊急事態宣言を受けて、本校も再び臨時休校に入ります。ただ、前回と大きく異なるのは、鳥取県でも感染が確認されたことと、経路が未確認の状態であるということです。次々と感染が拡大する状況となり、症状のない感染者の存在を意識せざるを得なくなりました。もしかすると自分自身がすでに感染していて、知らず知らずのうちに感染を広げている可能性も否定できません。東京都の例からも推察できることは、「感染経路不明の人が予想外に多い＝無症状の感染者が予想外に多い」ということ。だからこそその緊急事態宣言なのです。症状の出ない人から人への感染を防ぐには、人と会わないことでしか予防できないのです。かかった場合に無症状なのか、症状が悪化するのかは、誰にもわかりません。また、軽症（無症状）ゆえにPCR検査を受けられなかった例も多く見受けられます。そのことから、安易に鳥取は大丈夫…と言い切れないと考えます。自分だけは大丈夫とか、自分の周囲は大丈夫などという過信はやめましょう。

新学期に「自分を高めるために学習を頑張りました」「手伝いを頑張りました」という報告を受け、私がどれほど安堵したか分かるでしょうか？また、「ゲーム三昧でした」という人もいたけれど、自粛して自宅で過ごしてくれたことも同様に嬉しかったのです。再び休校となった今、生徒の皆さんは、行事がなくなり、学校も休みになり、いったい自分は何をすればいいのだろう？と不安になることと思います。また、再度自宅に籠って生活することをストレスに感じたり、暗鬱とした気持ちで、進路や将来を心配したりする人もいるでしょう。もしかすると緩やかな時間を過ごしすぎて、学校生活が少ししんどいかも…と疲れやすさを感じてしまうようになるかもしれません。いろんな状況が考えられますが、今、緊急事態であることは間違いのない事実です。様々な感情や課題に向き合ってどう過ごすか。Bestはないかもしれないけれど、よりBetterな生活にしていく。それを考える時間にしてください。



<先輩に学ぶ>

全日空商事 田中久敬様より君たちあてに
メッセージを頂戴しましたので紹介します。

鳥取大学附属中学校の在校生の皆さん

はじめまして。

わたしは附中を1979年(昭和54年)3月に卒業した、田中久敬(たなかひさよし)と言います。今回中止になった新3年生の皆さんの東京への修学旅行が実現していたら、先輩として皆さんにお話をする予定にしていた者です。

わたしが附中を卒業したのは、つまり、41年も前のことになります。ご存知だと思いますが、そのころ附中は正式名称を「鳥取大学教育学部附属中学校」と言っており、校舎は県庁の前にありました。わたしは小学校から9年間そこで学校生活を過ごし、中学校時代、勉強はそこそこでしたが、バスケットに勤しみ、素晴らしい先生や仲間とともに、楽しく、時には悩みつつ、日々を過ごしていました。いまでも思い出が鮮やかな母校での日々です。

わたしはその後西高から横浜の大学に進み、商事会社に就職してもう34年が経ちました。航空会社系の商社です。飛行機を売ったり、リースしたりする仕事をしています。

自己紹介が長くなりました。現在に目を移しましょう。

今起きている新型コロナウイルスの感染は、現代社会において今までにわたしたちが経験したことのない事態です。私が経験する限り、これほどの危機はありません。

皆さんにとっては、学校への登校ができなかったり、行事に制限があったり、それこそ楽しみにしていた修学旅行が中止になったりして、大きな影響を受けていると思います。これらはとてもつらいことです。

そんななかであっても、皆さんにはこの一生に一度とも言える経験を通じて、いろいろなことを感じ、学び、一人ひとりの成長につなげてほしいと思っています。皆さんの人生はこれからです。

皆さんに考えてほしいことがあります。

ほんとうに困っている人々がいること。困っている人々に手を差し伸べようとする人々や、なんとか危機を乗り越えようとする人々がいること。医療に携わる人々や科学者、公務員の方々の努力と苦勞。そして先生たち。一生懸命ウイルスの脅威からわたしたちとわたしたちの住む社会を守るため、これまでにない努力をしています。わたしたちの安心と安全を守るため多くの人が戦っているのです。

わたしの会社には関連会社も含めると3000人近くの人たちが働いていますが、やはり会社の事業に大きな影響が出ています。航空機に関わる仕事や空港での店舗運営などが主な事業なので、厳しい状況であるのは想像していただけたと思います。わたしの同僚とわたしも、痛みを分かち合いながら、いまはみんなで力を合わせて、この事態を乗り切ろうと歯を食いしばってがんばっています。

故郷を離れて38年になりますが、ニュースを見ていて日々気にかけていたのが、鳥取県で感染が出なかったことでした。感染した人が出て心配に思っていますが、これ以上感染が拡大しないことを祈っています。

わたしは鳥取を出てからずっと「わたしは鳥取の代表だ」と思い続けています。大学のときも、社会人になってからも、故郷である鳥取を忘れることはありません。年に一度くらい実家に帰るのですが、帰省の飛行機に乗った時からそこは鳥取で、空港に着くと父と母の「おかえり」のイントネーションが鳥取弁で、そこから急に時間の流れがゆっくりで、いつの間にか自分も鳥取弁でしゃべっている。そんな場所はわたしにとって、ほかにはないのです。

鳥取に対する思いの中でも、とりわけ、附中で学べたことは、いまでもわたしの心の支えであり、誇りです。これは皆さんが何年か後に社会人になって同じように感じるのだと思っています。わたしは会社でいろいろなチャンスをもらうことができ、若い頃から海外で働くことができたり、会社の重要な役割を任せられたりもしました。いまは役員として経営に携わっていますが、それは附中で学んだことから自分なりに得た確信のもとで、チャンスを生かすことができたからだと思っています。

「鶏口になるも牛後になるなかれ」

この言葉の意味は自分で調べていただければと思います。

附中で学んだことを通じて、わたしはこれが自分のあるべき姿だと思うようになりました。わたしなりの思いですが、どんなときでも、一歩前に進んで責任を背負うことで、道は拓けるのだと確信しています。

大きくはないけれど素晴らしい学校である附中に学ばせていただいて、本当に良かった。

皆さん進級おめでとう。

こんな中でも春はやってきました。鳥取の春はどうですか？

この前、附中の同級生が花見橋の桜の写真を送ってくれたので、見入ってしまいました。

いまは大変な時期ですが、次の機会があるならば、皆さんとお会いしてお話ができばうれしいですね。楽しみにしています。